



(岡山南部)

4 調査担当者 松本和男・乗岡 実・延堂 守・山本晋也・
氏平昭則
5 遺跡の種類 城下町跡
6 遺跡の年代 一四世紀前半～一九世紀後半
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、中国電力内山下変電所ならびに新社屋建設に伴うものである。調査対象地は、岡山市内の中心部に位置し、岡山城下絵図によると、岡山城二の丸に位置する。調査区は、岡山城下町絵図の一つである【慶安絵図】によれば、岡

岡山・岡山城二の丸跡

おかやまじょうじ まる

山藩の第三家老であった池田伊賀守の屋敷地の北西隅に相当する。発掘調査はA・Bの二調査区に分けて実施し、その面積は計一一八²mである。

- 1 所在地 岡山市内山下二丁目
2 調査期間 一九九四年(平6)八月～九月
3 発掘機関 中国電力内山下変電所建設事業埋蔵文化財調査委員会
4 調査担当者 松本和男・乗岡 実・延堂 守・山本晋也・
氏平昭則
5 遺跡の種類 城下町跡
6 遺跡の年代 一四世紀前半～一九世紀後半
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査で検出された主な遺構は、中世では墳墓・土坑、安土桃山～江戸時代では井戸・建物・便所・溝・土坑、幕末～明治では井戸などであり、これらの遺構に伴う遺物が出土した。今回の調査で最も注目されるのは、承応二年(一六五四)の洪水砂層に比定される土層内から、高台寺様式の蒔絵鉢を含む多量の遺物が出土したことである。

今回報告する六点の木簡は、(1)が洪水砂層、(2)～(4)が土坑一、(5)が土坑四から出土している。時期は(1)が一七世紀中葉、(2)～(5)が検出された遺構面や共伴遺物からみて、天正一九年(一五九一)～慶長二年(一五九七)の間に廃棄されたものと考えられる。

8 木簡の釦文・内容

洪水砂層

(1) • 「 中・田・三・ヶ・□・□」
• 「 □

162×35×5.5 032

土坑二

(2) • 「<sup>〔五
カ〕</sup>
〔▽□□□□□〕」

・「<sup>〔五
カ〕</sup>
〔▽□□□□□〕」

(3) • 「<sup>〔五
カ〕</sup>
〔遍□□□□□□〕」

・「あん
<sup>〔一
カ〕</sup>」

(4) □□無□

222.5×25.5×2.5 051
(122)×12×2.5 081

土坑四

(5) • 「。くぼたもち米五斗□□」

・「。<sup>〔五
斗〕</sup>中
□□□□」

125.5×22×2.5 051

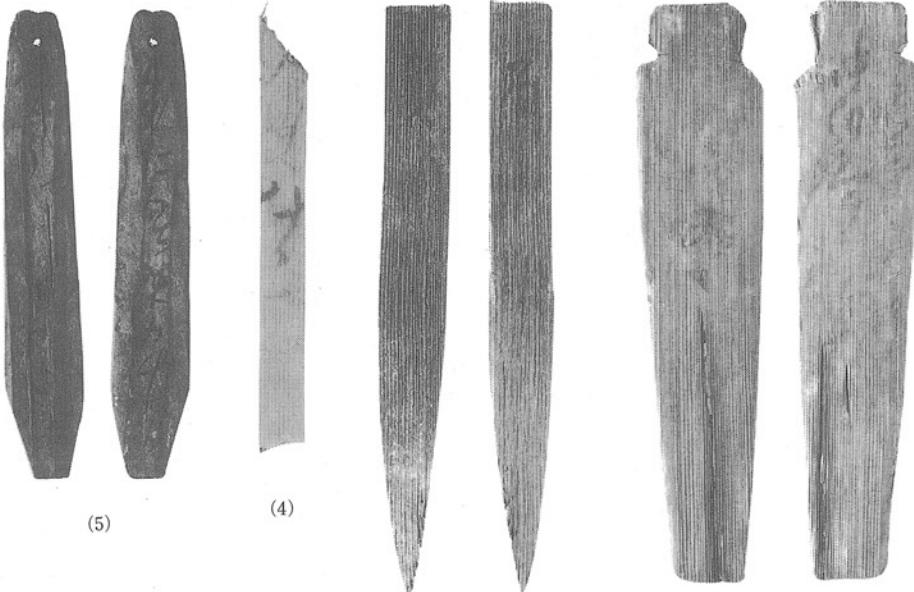
(1)(2)は上端に切り込みがあり、(3)は下端を尖らせる。(5)は下端の左右を削り細くし、上端に穿孔が見られる。いずれも読めない文字が多い。

木簡の釈読にあたっては、岡山県立博物館の竹林栄一・田村啓

介・中田利枝子氏に協力いただいた。

9 関係文献

中国電力内山下変電所建設事業埋蔵文化財調査委員会「岡山城一
の丸跡」(一九九八年)
(松本和男)



((1)(4)は赤外線写真)

(3)

(1)